

追浜あんず通信

Oppama Anzu Press

第16号 2018年10月 発行:特定非営利活動法人 アクションおっぱま

観光化に動き出した東京湾第二海堡

7月以降、「東京湾の海上要塞に上陸ツアー」という新聞記事をご覧になった方もいらっしゃると思います。「第二海堡と横須賀新港地区を結ぶツーリズム」を実現しようとする国土交通省関東地方整備局（以下「関東地整」と）と新たな観光事業を企画する横須賀市観光課とで、7月16日「東の軍艦島 第二海堡の秘密に迫る」と題する講演会が開催されました（10月7日富津市でも同旨の講演会を開催）。講演会も同時に募集した第二海堡見学クルーズも大人気だったことから、関東地整では、11月までにツアー業者5社による第二海堡へのトライアルツアーを実施することになりました。そこで様々な紹介記事が掲載されるようになったというわけです。

改めて東京湾海堡について整理しますと、第一海堡は水深約5mに設置され、1890（明治23）年に完成、第二海堡は水深約12mに設置され1914（大正3）年に完成しました。いずれも千葉県富津市に属します。第三海堡は第二海堡の南約2600m、水深約39mに設置され、1921（大正10）年に完成しましたが、関東大震災で被災し、近年航路整備事業によって引き上げられた遺構が、夏島都市緑地で保存、公開されています。



第二海堡では、2007年より浦賀水道航路の水深を維持するため斜面崩壊を防止する工事が進められており、一般の上陸を厳しく制限してきました。観光目的での上陸への転換は唐突な感じがしますが、第三海堡の遺構が横須賀市指定重要文化財（2013年指定）、神奈川県指定重要文化財（2018年指定）と文化財としての価値が認められたこと、第三海堡遺構の公開で年々見学者が増えていることも影響を与えているとのことでした。

上陸できることは好ましいことですが、第二海堡にある歴史遺産について、十分な調査と保全の対策にもきっちり対応してほしいと思います。

・第二海堡については、下記サイト（東京湾口航路事務所）をご参照ください。

<https://www.pa.ktr.mlit.go.jp/wankou/history/index4.htm>

（NPO法人アクションおっぱま理事長 昌子住江）

● NPO 法人アクションおっぱま 2018年度通常総会の報告

2018年6月8日（金）午後2時から、横須賀市追浜行政センター2階会議室で、NPO法人アクションおっぱまの通常総会が開催されました。議決権のある正会員の総数は40名で、過半数は21名。当日の出席者は35名（うち11名が書面評決者）で定足数を満たしました。

総会では、2017年度事業報告書、活動決算書、監査報告、並びに2018年度活動計画書、活動予算書、役員案がいずれも異議なく承認されました。

新役員は、理事に青木 猛、奥村樹郎、織田俊美、河村啓子、昌子住江、杉山 暢、村澤醇治、吉田洋子、監事に内野忠治となりました。理事の奥村樹郎が新任で、あとはいずれも再任です。なお総会後の理事会で、理事長昌子住江、副理事長青木猛、河村啓子が選出されました。今後ともよろしくお願いたします。

（NPO法人アクションおっぱま理事長 昌子住江）

● 理事に就任して

6月8日の総会でアクションおっぱまの理事に選任された奥村です。入会して7年を過ぎますが、日頃から不勉強なので、この会の活動の詳細がまだよく分かっていません。これから理事長はじめ先輩理事のご指導により、大いに勉強してこの会の発展、さらには追浜地区の活性化、ひいては横須賀市の発展に微力を尽くしたいと思います。

我が国はかつて世界第2の経済大国として大変な勢いでありましたが、今や中国に大きく引き離され、その他のアジアの国々にも追い上げられています。国内的には少子高齢化が進み、人手不足・人口減少が激しくなって、50年後には人口が半分になるとも云われています。

また中国による尖閣諸島への侵攻や近海の海底石油資源開発、韓国による竹島の事実上の占領、ロシアに占領された北方四島の永続化など、地勢的にもいよいよ厳しくなっています。

このような情勢を打破し、明るい将来を望むことができるようにしたいとは日本人の誰もが願っている

ことでしょう。そのためにはまず手近かな足元から始めることが肝要です。追浜地区の有形・無形の資源を掘り起こし、街並みを整え、国内ばかりでなく、国外からも人々が集まり、そして定住してくれるような町を作り上げていく必要があるかと思っています。

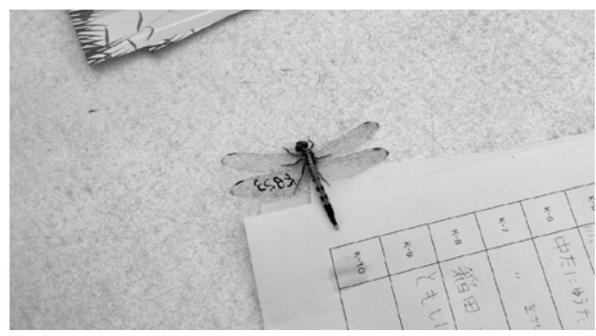
例えば戦争遺跡としての貝山地下壕があります。安全上の問題などからまだ公開していませんが、調査・検討は進んでいます。安全な場所や安全対策が可能な所だけでも部分的に開放しようという方向です。また、鷹取山から逗子の神武寺や京急田浦駅へ抜けるハイキングコースなども活用できます。新田次郎の小説に鷹取山の石切り場跡で岩登りの練習をするシーンがあります。現在は原則として禁止ですが、安全な活用策は考えられると思います。会員の皆さまからも良い知恵を頂けたら有り難いです。

(NPO 法人アクションおっぱま理事 奥村樹郎)

● トンボはドコまで飛ぶかフォーラム

なんて変わった団体名だろうと思われると思います。京浜臨海部の森づくりから始まった活動です。京浜臨海部の工場地帯でトンボを捕まえマーキングをして離します。そのトンボがドコまで飛ぶのかということ进行调查しているわけです。京浜臨海部では10か所、内陸部では6か所で夏に調査をします。今までに川崎の夢見が埒動物公園で見つけられたり昨年度は野毛山動物園で見つけられたりしました。

この調査は始まってもう15年になります。フォーラムのメンバーは企業、市民、専門家、



行政が柔らかなネットワークを組み、実施しています。なかなかこのような活動はめずらしいようです。今までに横浜環境活動賞や横浜ひと・まち・デザイン賞などをいただいています。また生物多様性 日本アワード優秀賞もいただくことができました。

追浜にもトンボ王国がありよいなあと思っていたのですが水質の問題などで出入りができなくなってしまいました。ぜひまた追浜でもトンボが飛び交う自然の場所ができるとよいなあと思っています。

(NPO 法人アクションおっぱま理事 トンボはドコまで飛ぶかフォーラム 代表 吉田洋子)

● わたしが感じる追浜の魅力

わたしがここ追浜で小さな CAFE をさせていただいていたのは今からもう 8 年も前のこと。右も左もわからないわたしたち姉妹をあたたかく迎えてくれた町の方。そして、雷神社の神さま。

そのおかげでまるで絵本の中にいるようなあたたかな時間の中で過ごすことができた。父の病気をきっかけに郷里に帰ってからも、お祭りの時には必ず連絡がきて、「今年も一緒に神輿を担ぎましょう。」と言ってくさる。

神輿をあげる人手が足りなくてお店に相談してくださったときからずっと、祭りに参加させていただいている。

その頃から快く引き受けてくれた友人は今で



追浜雷神社様

は祭りの大きな柱となり神輿をあげてくれている。その姿にいつも胸が熱くなり、感謝に溢れる。

CAFE のお客さんとして出会った人たちは、わたしのかけがえのない友人になっていて、あたたかい心と寝床を準備して、旅芸人を続け

るわたしを応援してくれている。

「いつ帰ってくるの?」と帰ってくるたび、あたたかなご飯を出してくださる方もいる。

一緒に神輿をあげてくれるたくさんの心ある友人が各地から訪れてくれることを、平和会の皆さんが本当に喜んで迎え入れてくれる。その歓迎の心に感謝がとまらない。

「ありがとうね、ありがとうね、また来年ね。」そう言ってわたしたちを送り出し、1年に1度元気にここで出会えることは何にも変えがたい喜びだ。

こうして人と人をつなげてくれるお祭り、雷神社さまという氏神様が大きく見守っていてくれる中、人の温かさを肌に実感できることが心から有り難い。

追浜が好きなことに理由はないが、追浜はたくさんの目には見えない魅力にも溢れている。

追浜の皆さんへ、この場を借りて心より感謝を。いつもありがとうございます。

また、お祭りでおあいできますように。

(絵本作家・やらだ出版主宰 渡邊直加)

(渡邊直加さんは、姉妹で追浜 2 丁目にジョイ・ハウスという、皆さんに親しまれたカフェを開いていらっしゃいました — 編集部)

● ら・ぶ・いん おっぱま ●

追浜銀座通り商店会 寿徳庵 斉藤仁克

平成30年6月に追浜銀座通り商店会の会長になりました。

商店会ではおっぱままつり、Yフェスタ追浜等他多くのイベントを年間を通して行っています。グルメ商品では、おっぱまワイン、おっぱまワインカレー、おっぱまワインケーキ、おっぱま塩焼きそば、ほか新しくトンネルグルメ等たくさんの街おこしグルメがある商店会です。

平成31年8月にはベイスターズ二軍の本拠地が完成します。それに伴い、年間の試合数が増えるため横須賀スタジアムへたくさんの方の来場者数が見込めるので、対策に向けて商店会ア

ピールの様々な事業を検討しています。

追浜は、横須賀市内では人口の増加が一番多い地区で特に若い世代、子育て世代が増えました。イベント時には大勢の人たちで賑わいますが日常の商店街は閑散としているのが現状です。

商店会としては、これからは若い世代、子育て世代の人たちが気軽に商店街へきてもらえる事業を若いお母さんたちの意見を聞きながら協働してゆく予定です。

横須賀市の中で追浜が住みたい街ナンバーワンを目標に皆さんと共に素晴らしい街を作りたいです。



1 寿徳庵 追浜店
〒230-0201 横須賀市追浜本町1-40
☎ 046-865-3558
● 平日11:00~15:00
17:00~21:00
土日祝11:00~21:00
☐ 月曜(祝日の場合は翌日)

筒井隧道野菜天ざるそば
----- ¥972(税込)
冷たいお蕎麦に海苔、かぼちゃの天ぷらでトンネルをイメージしました。しめじとブロッコリーの天ぷらが添えられています。

TSUTSUI ZUIDO
筒井隧道

講演会“海堡”って何？ ～東京湾の秘められた人工島～

夏島都市緑地内の東京湾第三海堡構造物は、すでに横須賀市指定重要文化財になっていますが(2013年3月)、2018年3月神奈川県指定重要文化財に指定されました。また最近では東京湾上にある第二海堡への上陸ツアーが企画され、第三海堡構造物の見学者も徐々に増えるなど、明治から大正にかけて建設された東京湾海堡に関心が集まっています。

そこで、改めて東京湾海堡がなぜ、どのように建設されたかについて知るとともに、遺された海堡を保存し、活用するにはどうしたらよいか、海外の事例も参考にしながら考えたいと思います。

主催：NPO法人アクションおっぱま 後援：追浜地域運営協議会 (この催しは平成30年度横須賀市NPO法人補助金を得ています)

日時	11月25日(日) 午後2時から (午後1時30分開場)
会場	追浜コミュニティセンター 4階集会室
定員	100名 入場無料 (先着順/事前のお申し込みはおりません)
講師と演題	高橋悦子 (東京湾海堡ファンクラブ事務局長、土木学会・選奨土木遺産選考委員会幹事) 「人工島建設の黎明—明治から大正期」
	真島秀行 (お茶の水女子大学名誉教授) 「東京湾海堡建設の功労者西田明則と和算」
	岡田昌彰 (近畿大学工学部社会環境工学科教授) 「東京湾海堡の景観的意義」

ルネ追浜親子サークル {おひさま}

親子サークル{おひさま}は、マンション内で発足して3年目になります。

未就学児の親子の交流を目的としたサークルで、マンション内のキッズルームにて月1度活動しています。ゆったりとした時間の中で子どもの遊ぶ様子を見守りながら、お母さん同士の交流の時間をもっていきます。

ぎんのすず幼稚園の先生にもご協力いただき、手遊びや絵本の読み聞かせをしていただくことで親子のスキンシップも行っています。NPO法人アクションおっぱまの内野忠治さんにも毎月活動を見守っていただき、住民以外の方にも支えられて活動を続けることができています。9月の活動ではメンバー数人で企画した「秋祭り」を開催しました。

前半は普段どおりの活動の手遊びや絵本の読み聞かせを行い、後半は魚釣り・輪投げ・ボーリングのコーナーを設け、さらに最近はやりの「赤ちゃんお昼寝アート」にもチャレンジしてみました。

お昼寝アートとは、シーツに寝転んだ赤ちゃんの周りに身近な小物を使って背景を作り赤ちゃんを撮影するものです。

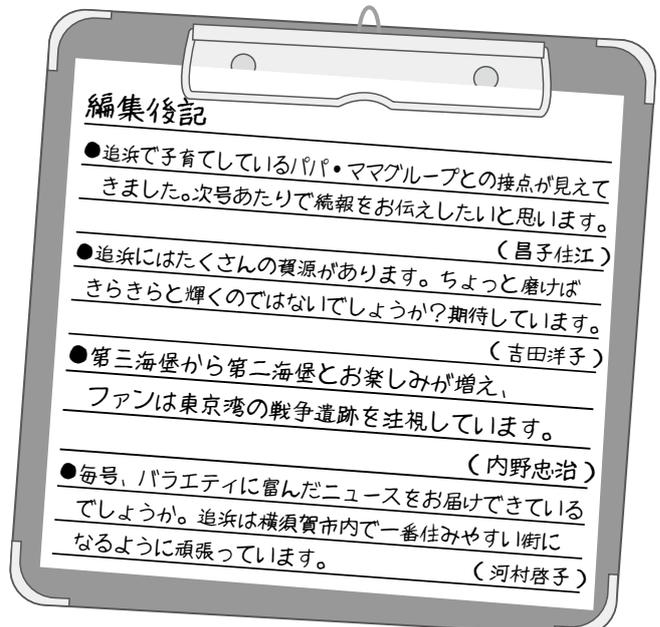
今回は秋祭りにちなみ、うちわ・手ぬぐいや色紙で作った提灯、さらに秋らしく折り紙で作ったモミジや柿なども用意し、赤ちゃんの周りに飾って皆さ

んに撮影してもらいました。赤ちゃんなので思うように撮影出来ないこともありますが、周りのお母さんが赤ちゃんに声をかけたりして撮影する様子もうかがえました。

魚釣りでは、魚の形に切った色紙、目や鱗用に作ったシールなどを袋に入れた「お魚工作キット」を用意し、その袋を釣ってもらい家に持ち帰ってからも楽しめるようにしました。

遊んでいくうちにお母さん同士の会話も増えていき、楽しい秋祭りになったと思います。

今後も{おひさま}の活動が、親子のふれあう楽しい時間となり、交流の輪も広がるきっかけの場になればと願います。(ルネ追浜居住者 原田佳代)



追浜あんず通信 16号 2018年10月発行

発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま
発行人 昌子住江
編集 NPO法人アクションおっぱま編集委員会